

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム「ひまわり」

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300089		
法人名	社会福祉法人 典人会		
事業所名	グループホーム「ひまわり」		
所在地	〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字山馬越196番地		
自己評価作成日	平成 22年 2 月 3 日	評価結果市町村受理日	平成 22年 5 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370300089&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ひまわり」は平成8年に開所し14年目を迎えております。開所より共に生活してきましたお年寄りの方がお亡くなりになるという悲しい出来事がありました。そのような中、職員全員がお年寄りの重度化と向き合い、いろいろなことを悩み、話し合い、すばらしい「チームケア」のもとその方を安らかにおくることが出来たと思います。重度化のなか職員全員で考えた理念「いつまでも元気と笑顔願って……」のもと、さらにはもっと具体的なものとして「きれいな挨拶・きれいな身だしなみ・きれいな住まい」をやはり職員皆で考えた目標として掲げチーム一丸となり毎日のケアにあたっております。お年寄りの笑顔は第一ではありますが、私たち職員の笑顔や、きれいな挨拶で、ご協力いただいているご家族、地域の皆様方にいつみられても恥ずかしくないグループホーム「ひまわり」でありたいと願っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩手県で最初に開所した先駆的な当ホームも14年目を迎えている。開所時から一緒に生活してきた利用者を看取るなど、家族・利用者が安心して納得できる利用者本位の視点で取り組んできた経験とホームの学びの姿勢が職員の自信につながっている。また毎年、ホームの理念を変え、その目標に向けた実践のあり方を皆で考えケアの深化への追究の姿勢が見られる。そのほか例えば、新規入所の利用者の不安解消のため居室に回覧板を置き、それを利用者が見ることで、安心感を持って日々の生活感を味わってもらおうか、夜勤者にはベテランを配置するなど、アイデアを出し合いながら取り組みをしている。更に、運営推進会議には20人近い委員等関係者が出席する中で消防署の方から設備や避難などの対応の在り方の現状を事細かに説明され意見交換を行うなど、職員、利用者・家族、地域支援者の理解が深められており運営に工夫が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム「ひまわり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の掲げている理念「住み慣れた地域でその人らしく最後まで」のもと事業所独自の基本理念の構築を行い、スタッフミーティングの際に意見を出し合いスタッフ全員が関わって掲げた理念のもと、共有し、日々の実践につながっています。	毎年、職員間で話し合い理念を決めるが、今年は「今、大事なものは何か」をキーワードに話し合い、利用者は重度化しているが長生きしてもらいたい気持ちで「いつまでも元気と笑顔を願って…」を掲げ、まずスタッフから元気や笑顔を絶やさないう心がけケアにつなげている。	開所から14年目を迎え、豊富な経験と日頃の学びの姿勢が今日の「ひまわり」となっている。特に、理念を「今、従事するスタッフで考えそれを実践する」手法は素晴らしいものであり今後の一層のケアの在り方の深化に期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との日常的な交流として、毎日近所のスーパーに買い物に出掛けております。そこで、知り合いの方から声をかけられたりして会話が生まれます。また、運営推進会議では、地域の方との交流を図っております。	老人保健施設や特別養護老人ホーム等の大型施設に囲まれた環境の中で、地域の公民館の働きかけで、子供達とみずき団子作りをしたり、ボランティアが話し相手や折り紙をするなど、工夫しながら地域の方々と交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が啓蒙活動として行っている「ボケー座」に職員も積極的に参加し認知症への理解や支援を行っておりますが、事業所が主体となって地域貢献を行っていることはあまりないように思われます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス利用状況の他、行事実施報告、認知症ケア向上等のため参加させていただいている研修会の参加報告、研修受入れ状況などについても報告を行い、委員の皆様からいただいた意見をサービスに活かせるよう心がけております。	毎日通うスーパーの店長や見守りサポーター、公民館、消防署、警察関係者など、開催の都度多方面から参加をお願いするなど特色を出し、これがホームの理解が得られているほか、参加者からは参考情報や意見が出され役立っている。	運営推進会議を「学ぶ」「ホームの理解」「提言・提案」「意見交換」「広報」「連携・調整」「協力・支援の要請」などの場・機会として特色ある運営をしており、今後も引き続き工夫する中で運営されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では連携は出来ていると思います。また、ご家族からの相談等で市町村担当者と協力した事例があるなど協力関係を築くよう取り組んでおります。	月1回、市が開催する事業所連絡会での情報のやりとりや、ホームの空き状態、生活保護適用のための情報交換等が行われ協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修や勉強会で学ぶ機会もあり、施錠はもちろん、身体への拘束の禁止は徹底されていると思います。	身体拘束は不安等を誘発する恐れがあるなど悪循環に通じることを職員間で話し合うなど、身体拘束禁止は全職員理解している。なお、帰宅願望の方には他の役割をお願いをしたり気持ちを別の方向に向けさせるなど、工夫しながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体への虐待はないが、とっさに出る一言や配慮のない言葉が聞かれる事がまれにあると思われる。勉強会やミーティング等で話し合いを持ち、また、見過ごすことのないよう職員同士で指摘するよう心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会などで学ぶことはありますが、全職員が学ぶ機会を持っていない現状があります。また、活用する機会も現在はない状況となっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書などを用い、十分な説明を行い、その上で署名、捺印をいただいております。また、不安を残さないよう、その後も何か不明な点があれば、お話いただけるよう伝えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談及び苦情受付を設けている旨、契約書及び重要事項説明書に記載し、玄関にも掲げております。また、家族会を開催し意見を伺ったり、家族アンケートを実施し意見、要望を伺い運営に反映できていると思えます。	家族交流会の開催時や、自宅の訪問時、家族アンケート等を利用し意見を聞くようになっている。家族からは感謝の言葉は多くもらうが、要望などは今のところ殆ど出されていないとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回定期的に開催している職員ミーティングにおいて意見を出し合い、職員の意見、提案を反映できるよう取り組んでおります。	毎月行うミーティングでの職員提案、例えば、安眠のためにリハビリパンツ使用からおむつ利用へ、不要業務の切り替え、マニュアルの見直し、勤務体制や有休の取り方などについて運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度はOJT実践日誌に取り組み、法人の総所長が中心となり職員一人一人の意見や目標、また、課題等にも目を向けるなど職場環境・条件の整備に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はOJT実践日誌に取り組み、法人の総所長が中心となり職員一人一人の意見や目標、また、課題等にも目を向けるなど力量の把握の実施しております。また、法人内外の研修の機会は多く確保でき、スキルアップにつながっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会で実施している定例会への参加などにより交流する機会を設けています。そこで得た多くの気づきを日々のケアに活かされております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と一緒に本人がどのようなことに困っているのか必要としているのか話を聞くことに重点をおきおこなっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を希望される場合のほとんどは、ご家族からのニーズや要望が主となることが多い現状です。傾聴し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のニーズを伺ったうえで「その時」必要なものを検討し、適切なサービス利用につなげるよう対応しております。他のサービス利用につながった事例もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来ることは行ってもらい、出来ない部分や難しそうなところにサポートし、本人の生活のサポートに努めています。また、お年寄り職員は共に生活をする運命共同体であるということを中心に心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人個人のご家族さんとの連絡ノートを設け、面会や電話の記録を残し、また、面会時には直接記入を依頼する等、その情報を職員やご家族で共有し、絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれのお年寄りの馴染みの場所ということで生家や嫁ぎ先を訪問する「ふるさと訪問」の実施により馴染みの人との交流をはかり関係が途切れないよう努めていますが、全員の方に実施できていない現状もありますので今後の課題です。	毎日買物に行くスーパーでは、従業員や買物客と馴染みになり声をかけてもらったり、昔の職場の人と出会う懐かしい話をしたり、お友達の来訪で大正琴と一緒に弾いたりするほか、時々自宅に帰ることで落ち着く変化も見られることから、様々な方法で馴染みの関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事の際にお年寄り同士の関係を配慮し間に職員も関わることでお互いが気持ちよくいられる雰囲気作りを心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お年寄りがお亡くなりになりサービス利用が終了した場合においてもこれまでのように連絡を取り合ったり、お墓参りに伺ったりなどしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の願いや希望、嗜好などを把握するように努めております。認知症の重度化等により困難な場合はご家族に伺ったりしておりますが、生活歴等によりご本人の意向は「こうであろう」と職員が検討して意向の把握に努めています。	例えば、「今、食べたい物は」、「今日、買い物に行きますか」等、その日の本人の意向を聞き確認するほか、思いや意向等に疑問を持った時は、原点に戻りスタッフ全員で確認し合い、又家族から経過を聞いたりしながら、意向把握と確認に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによりその方のこれまでの生活歴やご家族、または関係している方の把握に努めてます。実際に「ふるさと訪問」し生活環境等の確認にも努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動パターンの把握、心身状態の把握など、スタッフ皆で連携し小さな気付きも共有できるようにスタッフ連絡ノートの活用により現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは職員間で協議した後原案とし、その後ご家族等に意見やご希望を伺う機会を設け、介護計画を作成しております。	評価に重点を置きケース検討会で話し合っている。その際、職員からいろいろな意見が出され、時には、「本人が望むものとは」に時間をかけ意見交換しながら利用者本位の計画づくりをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的開催される職員ミーティングにおいて介護計画の見直しや課題、ケアのあり方等話し合いの機会がありますが、お年寄りの小さな反応に着目したその都度の計画の見直しについては課題もあるのが現状となっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化という点においては、現在短期利用を実施しております。長く入居されている方への多機能な支援として「ふるさと訪問」として生家や馴染みの場所への訪問やなかなか会えないご家族との電話や手紙の支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域の消防、警察、民生委員、地域公民館長等に参加していただき、安全で豊かな暮らしを送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際はお一人お一人のかかりつけ医への適切な医療が受けれるよう支援できております。また、ご家族の力も借りながら受診の支援を行っております。	かかりつけ医の受診は家族対応とするも、利用者の健康状況を把握していることから、職員の付き添いで受診する機会が多くなっている。家族又は職員で受診対応した場合は、お互いに情報を交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員として看護職員もおり、お年寄りと生活を共にすることで少しの体調の変化や急変時の対応もスムーズに連携ができております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院された方がお二人おりましたが、その都度経過記録の報告や普段の様子は詳しくお伝えしております。また、入院中も職員が交代でお見舞いに伺い病院関係者との情報交換や相談を行い関係づくりをおこなっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りを経験しております。お年寄りの重度化に伴い終末期のあり方については家族、主治医、事業所での話し合いの機会は何度も持ちスタッフミーティングでも看取りの勉強会を行うなどチームで支援に取り組むことができました。	利用者の一部とは、1996年の開設時から一緒に生活し、またその間、看取りの経験等を踏まえ、スタッフも当たり前のこととして対応できる関係となっている。なお、法人内の連携網や医療との連携なども整備され、夜勤にもゆとりが持てるとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の医療等の連携や看護職員等との連絡方法のマニュアルも作成しており実践も出ております。また、応急手当等の研修会を行い実践力も全ての職員となると課題もありますが大半の職員は身に付いていると思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において地域の方との話し合いや、法人全体での当事業所が火元となる避難訓練の実施により協力体制や各職員の動き方等について連携を築いております。風水害時の訓練については未実施となり課題と思われれます。	通報訓練や日中・夜間の避難訓練などを実施しているほか、運営推進会議に消防署の担当者が出席し夜間避難訓練実施結果のほか、設備や通報・避難のあり方など詳細な指導や意見交換をするなど、防火対策に理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人生の先輩としての敬意や誇りに配慮した言葉かけや対応にスタッフ皆で努めておりますが、時折、親しみを感じるあまりや馴れからもあると思われる不適切な言葉使いや対応もありますので皆で声を出し合い、確認しながら直していくよう努めます	利用者の尊厳を損ねないケアを基本とし、子供っぽい言葉かけや、忙しいなかで真剣みのない対応があった時には、職員が気付いたときお互い注意し合いながらケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかでお年寄りの意向を伺ったり選択していただく機会を持てるよう配慮した関わりが来ているとは思いますが、衣類の選択の機会など自己決定を働きかける場面がもう少しあっても良いのかなとも思いますので今後の課題です		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜眠りたくない方、日中横になりたい方、歩け歩きたい方等その人のペースで過ごしていただけるよう努めてはおりますが、職員の都合が優先される場面もあることも現状としてはあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で髪を整えることができる方には鏡を見て整えていただき、馴染みのくしを使い髪を結ったり、敬老会等にはお化粧やおしゃれの支援は出来ておりますが、毎日の生活の中での食後の衣類の汚れ等の支援については課題もあります		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える際にはお年寄りに食べたいものを伺うようにしています。また、調理に関わっていただいたり、ご飯の盛り付けをお願いしております。食器洗いや片付けを一緒に行ったり力の発揮の場面はあります。	利用者の食べたい物を大切にしつつ便秘予防にも配慮し、野菜中心、乳製品を取り入れた食事などに工夫をし、また利用者と一緒に手作りした料理を職員と一緒に楽しく食事の時間を過ごしている。なお、時折、寿司などを食べたいとして外食をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録をとって把握し、食が進まないときはあまり無理せず一日のトータル量で考えております。また、水分についても、お茶ゼリーの工夫やお茶の時間の充実(最低2杯は飲んでいただく)等水分摂取量についても確保できるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の航空ケアは必ず行っている。うがい等できることは自分で行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は間隔を見ながらトイレにお誘いし、トイレでの排泄を心がけております。排泄記録によるパターンやサインの把握に努め気持ちよく排泄できるように支援している。	トイレでの排泄は利用者にとって自信に繋がると心がけ、排泄記録を基に時間を見て「じゃ行きますか」等と言いながらトイレ誘導している。また、寝たきりに近い方も介助しながらもトイレに座ると安心・安堵した表情になるなど、出来るだけトイレでの排泄支援のケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前にはヨーグルトを飲んでいただき、便秘ぎみの方には毎食前にも飲んでいただくなど薬だけに頼らない支援をしています。野菜中心の食生活や、運動が可能な方への働きかけ等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を選択していただくというのは職員の勤務体制上厳しい現実やお年寄りの身体的にも厳しい現実があります。短期利用の方では午後や夜間の希望のある方への希望に沿った支援は出来ていると思います。	1日3～4人位で午前中の中の入浴が多い。夜間入浴の希望にも応じている。入浴は、心地よくホットする気分となる入浴支援に心がけ、入浴介助しながら利用者の思いを聞いたり、身体の観察など、清潔と健康を考えながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じた支援は出来ていると思いますが、夜間の安眠については頻回のパット交換という現実や安眠か清潔かで悩んでいる現実もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧により直ぐに確認できる状態となっているが副作用までの理解は厳しい現状です。下剤については状況により服薬支援に変化が生じるため細かい取り決めがなされ、マニュアル化されたものがある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方への音楽療法への参加、ドライブでの行きたいところの声掛け、昔より取り組んでいる工作活動の支援、昔からの季節に応じたならわし等を行っている。役割としては、日常的な掃除、洗濯物たたみ、お茶碗洗い等で活躍していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お年寄りが外出を希望されることは少ないが、ドライブに出かける際には行き先を伺ったり、「ふるさと訪問」では家族との連携により出身地へ赴きお墓参りなど普段行けない場所に出かけご本人の喜びや普段は見れない力の発揮に職員一同感激しました。	毎日買い物に出かけるほか、日曜日は入浴がないことから、楽しみの日として椿館や紅葉等を見にドライブに出かけている。また、市役所に様々の手続き等のため利用者と一緒に出かけるなど、外出の機会を多く作るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いや管理をご本人が行うことは難しい現状があり、お金に関わる機会はあまりない状況です。短期利用の方で買い物の会計の際に財布を渡し支払っていただくなどの支援はあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度はインフルエンザによる面会の自粛ということでご家族との繋がりが少ないこともあり、ご家族からの手紙をいただく支援を相談し実施できてます。また、電話についても職員、お年寄り、ご家族を交えての会話の機会を設けております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や壁面、テーブルなどに季節ごとの装飾を行い季節感を取り入れる工夫をしている。最近では、お年寄りと共に作った「みずき団子」を飾りました。また室温や湿度に配慮した空間作りにも心がけている。	居間、玄関には季節柄、お雛様が飾られ、キッチンと食堂兼居間は同じ空間でオープンで、食事作りの様子や音、臭い等感じることができる環境にある。利用者は、テレビをみたり、こたつに入ったり、ソファーに座ったり思い思いに過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お年寄りそれぞれに自然とできた居場所があり、普段は穏やかに談話されるが、時々、その空間に他の方が入ってくると声を上げ排除しようとする場面が見られるのでお互い不快な思いをすることが少ないように職員が配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具等持ってきていただき、居室にはそれぞれの個性があります。短期利用のお部屋は利用される方に配慮し畳を敷いたりベッドの位置、向きを変えるなど安心して利用できるよう工夫している。	居室には、ダンス、鏡台、こたつ、テレビ、ソファー、テーブル等利用者の使いなれた家具や調度品が置かれ、ベッドの置き方にもそれぞれ利用者の意向に沿った置き方とするなど、利用者が居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は安全に歩行できるように障害となるものは置かず途中で休めるようソファのみ設置し、トイレにも分かりやすいよう大きく書かれたプレートを設置している。立ち上がり可能な方へのテーブルや椅子の配置の配慮など安全で自立した生活への工夫をしている。		